

愛の聖母園

事業報告NO.46

令和6年12月1日

社会福祉法人 善き牧者会
児童養護施設 愛の聖母園

〒891-0117 鹿児島市西谷山一丁目1番15号
TEL.099-268-2045 FAX.099-268-2809
E-mail:seiboen@peace.ocn.ne.jp
<http://ainoseiboen.jp>

ごあいさつ

中野 裕明

「愛の聖母園」に向けた日頃の皆さまからのご支援・ご協力に衷心より感謝いたします。当園は、善き牧者であるイエス・キリストの生き方を理想として、運営されていますが、今回、イエスの思いの一部をご紹介します。イエスのことばに次のようなものがあります。「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまづかせるものは、ろばの挽く石臼を首にかけられて、深い海に沈められるほうがましである。人をつまづかせるこの世に災いあれ。つまづきは必ず来るが、つまづきをもたらす者には災いがある。」

(マタイ福音書 18章 6～7節)
人間は普通に乳児から幼児、小学生、中学生、高校生へと成長していきます。この成長段階で、小学生に上

うに、目に見えない存在を受け入れる事の出来る年頃です。この目には見えないけれど存在する、換言すれば、神聖なものへの感性は人が生きる上で、と

がる前ぐらいが、一番神様に近いと言われています。サンタクロースの存在を信じているよう、目に見えない存在を受け入れる事の出来る年頃です。この目には見えないけれど存在する、換言すれば、神聖なものへの感性は人が生きる上で、と

仰いでいるのである。」(同上10
～11節)そして一つのたとえ話をします。

「ある人が羊を百匹持つていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残して、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。よく言っておくが、



ても大事なことだと、イエスは考えています。さらにイエスの話は続きます。

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言っておぐが、彼らの天使たちは天にあっていつも、天にあられる私の父の御顔を

いる子どもたちがこの失われた羊たちであると私は感じています。迷い出ながら走ります。迷い出ながら走った九十九匹は、自分の人生必要としている。こ羊は、たゞ、迷つていただけではなく、大人によつてつまづきを受けた者でもあると考えます。勿論、イエスが指摘しているように、この世では「つまづきは必ず来る」事は確かです。しかし不幸にして、幼い時につまづきを受けた子どもたちがいること、そしてその子どもたちに愛情を注ぐことこそ、天のお父さんの心である、といエスは私たちを諭しているのだと思います。

(社会福祉法人
「善き牧者会」理事長)